

1. 単元名(主題) 「研究計画の精査とリサーチクエスションの検証」

～先行研究の再確認、問いの発展、および研究計画書・報告書の再構築～

2. 本時の主題の概要および設定理由

本時の概要は、1年半にわたる「専門的課題研究」の本格的な開始にあたり、前年度からの研究内容を踏まえ、1年間の最終的なゴールを見据えた研究計画の明確化を目的とする。

高校2年生という探究の本格化期において、生徒が単なる「調べ学習」や感覚的な検証に陥らないよう、本校独自の『課題研究メソッド』を積極的に参照し、探究のプロセスに沿った論理的思考力を養うことが不可欠である。そのため、本時は一斉講義を最小限に留め、75分以上に及ぶ手厚い個別面談・個別巡回時間を設定している。教員は主導的に答えを与えるのではなく、生徒の考えに伴走し、「問いかけ」を繰り返すことで生徒自身に気づきを促す支援を行う。以上の理由から、本時の主題を設定した。

3. 本時の目標

- 1) **研究プロセスの論理性の理解とメソッドの活用:** 前回のガイダンスおよびプレ探究での経験を振り返り、自らの研究が『課題研究メソッド』に基づいた論理的・科学的なプロセス(STEP1～7)に沿っているかを理解し、意識的に活用できる。
- 2) **研究計画およびリサーチクエスションの具体化と検証:** 指導教員との個別面談やチーム内の共同議論を通じ、研究目的(RQおよび仮説)の整合性、先行研究の調査状況、研究手法の実現可能性、さらには実験等における安全管理(リスク管理)について検証・具体化できる。
- 3) **計画的な研究活動の基盤構築:** 今年度の最終発表会(生徒探究発表会)を見据え、今年度1年間で明らかにすべき課題を『研究計画書兼報告書』に反映し、当面の個別タスクを『探究ノート』に記録して自律的に活動を開始できる。

4. 本時の準備・使用教材

- 教員用提示資料: 『SSⅡ-第02回スライド』
- 使用教材(副教材): 『課題研究メソッド 2nd Edition』(岡本 尚也／新興出版社啓林館／2021)
- 生徒用ワークシート: 『探究ノート』(Google Classroomにて配信済み)
- 共同編集用ファイル: 『研究計画書兼報告書』
- 教員用管理資料: 『教室別名票』(各教室の担当教員に配布)、『HR別名票』
- 共通参照資料: 『高2 SSⅡ 学習の手引き』

5. 本時の展開(100分)

【ゼミコース・ラボコース共通】

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
5分	(1) 出席確認、本日の移動先教室の確認 - 各学問系統別に指定された教室(普通教室、情報教室、物理教室、化学教室、生物教室、地学ラボ等)へ移動し、出席確認を受ける。 - 各自の情報端末を起動し、授業の準備を行う。	- 名票を用いて速やかに出席確認を行う。 - 遅刻や欠席者の確認を行い、教室内の人員配置を整える。
10分	(2) 前回の振り返りと本時の趣旨説明の聴講 『SSⅡ 第2回スライド』に基づき、専門的課題研究のイメージや探究のステップ(STEP1～7)についての説明を聴く。 「感覚的な探究」ではなく『課題研究メソッド』に沿った論理的思考や、継続的なスケジュール管理、指導教員への報告・連絡・相談(メール連絡の作法や誠実な返信等)の重要性を再確認する。	- 提示資料を用いて、昨年度から続く1年半の専門的課題研究が本格化している重要性を強調する。 - プレ探究で実践した探究のステップを反復・発展させ、より高次のリサーチクエスト(RQ)を導くことの必要性を指導する。 - 感覚的なアプローチを排除するため、活動中常に『課題研究メソッド』を参照するよう生徒に指導・指示する。
5分	(3) 探究ノートへの目標記述および本日の活動開始 『探究ノート』を開き、「①本日の予定・目標」を記述する。 - 前回の未了事項があるチームは、各自の端末で『研究計画書兼報告書』を開き、ファイル名の旧チーム番号を新チーム番号へと書き換える。	- 生徒に対して『探究ノート』の記入を指示し、毎授業での振り返りとタスク管理を習慣化させる。 - 前回の活動の積み残し(チーム番号の更新やドキュメントの整理等)があるチームに対し、迅速なファイル名修正や基本情報の整理を指導する。
75分	(4) 指導教員との面談、およびチーム個別探究活動 各教室に配置された担当指導教員との個別面談に臨み、研究計画やリサーチクエスト、仮説検証の妥当性について助言を受ける。 面談以外の時間は、各チームで『課題研究メソッド』を活用し、以下の活動を進める - 今年度の最終発表会(生徒探究発表会)をゴールとし、今年度1年間で何を明らかにしたいか、どのような手順で研究を進めるかを話し合い、『研究計画書兼報告書』に反映する。 - 先行研究や事例の不足がないかを調査し、必要に応じて端末等で文献調査を行う。 - ラボコース(物理・化学・生物・地学・情報等)のチームは、研究方法の実現可能性に加え、安全面のリスク管理(『課題研究メソッド』p.188-189参照)について確認・検討する	- 教員は「同教室の教員間で相談し、1チームに1名の教員を割り当てる」という指導体制を敷き、速やかにチーム面談を開始する。 【伴走型支援の徹底】教員は、安易に答えを与えたり特定の方向性に誘導したりせず、生徒が自分の課題研究を「自分事」として捉えられるように伴走する。 - 面談では、「具体的にどう考えている?」「この方法で本当に検証できそう?」「その結果・考察に対して、客観的に本当にそう言えるか?」など、優しく丁寧かつ核心を突く「問いかけ」を重ねる。 - チームがあやふやなテーマに留まっている場合でも、生徒自身が思考を深めるのを指導教員が辛抱強く見守る。 - 担当チームが探究プロセス(STEP1～7)のどの段階にあるかを把握し、可能な限り記録を保持して、生徒との間でタスクを共有させる。 『探究ノート』に面談でのアドバイスや紹介した文献、決定したタスクを積極的に書き留めるよう指導する。 - ラボコースや実験を行うチームに対しては、調査・実験に伴うリスク(安全管理、倫理規定など)に十分な配慮があるか厳しくチェックを行う。
5分	(5) 活動の振り返りと次回タスクの整理	終了5分前になったら、『探究ノート』への記述と自己評

	● 各自で『探究ノート』に「②本日の活動内容」「③次に行うこと(次回の目標・タスク)」を記入する。 ● チーム内、および各自の端末上で役割分担と次回の活動予定を共有・確認する。	価を促す。 ● 本時の活動を客観的に評価し、次回からの活動が自立かつ円滑に開始できるよう、タスクの明確な役割分担と共有を指導する。 ● 次回の持参物や、次回までに各自が進めるべきタスクを確認させ、授業を終了する。
--	---	--

6. 参考資料

【指導教員の伴走・面談における基本姿勢】

1. 生徒に伴走する姿勢の重視

- 答えを与えたり、大人の都合で特定の方向性に誘導したりするのではなく、生徒が自分の課題研究を「自分事」として引き受けられるよう問いかけを重ねる。
- あやふやなテーマに留まっているチームであっても、対話を通じて考えが深まるのを辛抱強く見取り、支援する。

2. 多面的な問いの提示

- 研究内容に留まらず、今後の詳細な計画や、仮説検証の妥当性・客観性について積極的に質問を投げかける。
- 問いかけの例：「(研究計画について)具体的にどう考えている？これで検証できそう？」「(想定される結果に対して)本当にそう言える？」など、受容的なトーンで語りかける。

3. プロセスの把握と共有

- 担当チームが専門的課題研究のプロセスのどの段階にいるのかを把握し、タスクの進捗を記録する。
- 必要に応じて、生徒同士の役割分担を適切に促す。

4. 『探究ノート』の確実な活用

- 1年次から引き継いでいる『探究ノート』に、面談時のアドバイスや、紹介された参考文献、次週へのタスク等を漏れなく記録するよう習慣づける。

【面談時・計画書検証チェックリスト】

面談時には、以下のチェック項目をもとに生徒の計画書を多面的に検証し、不足している要素について具体的な問いかけを行う。

□ タイトルはその研究の内容を示しているか？

- 指導の視点：研究テーマや対象が具体的にわかるタイトルになっているか。現段階では仮案であっても、方向性が明確であるか。

□ 研究の目的(リサーチクエストとその仮説)は明確になっているか？

- 問いかけの深掘り観点：
 - 研究テーマについて、現時点でわかっていることは何か？
 - それらの中で、不足している事項や問題点は何か？
 - どのような先行研究・事例があるか(誰がどのように調査しているか)？
 - 自分の課題研究と先行研究・事例は、どのような関係性(新規性・相違点)があるか？
 - 自分の課題研究を行う前と行った後で、どのような変化や効果が期待されるか？

□ 先行研究・事例、現状分析から「研究の意義」を見出せているか？

- 問いかけの深掘り観点：
 - 複数の先行研究・事例を見つけることができたか？
 - リサーチクエストと関連が強いキーワードから文献を挙げられているか？
 - どのような研究方法を用いてそのリサーチクエストの答えにたどり着くかを、論理的に理解できているか？
 - 先行研究を鵜呑みにせず、疑問点や不足事項を見つけることができたか？
 - 文献リストを適切にまとめているか？

□ その研究方法でリサーチクエストに確実に答えることができるか？分析方法まで見通せているか？

□ その研究方法を用いた調査・実験は、時間的・環境的(安全面)に実行可能か？

□ 調査・実験に関する「リスク管理」の認識は十分か？(特にラボコースにおける安全確保)

【リサーチクエストの再定義・検証ポイント(曖昧なテーマへの追加アプローチ)】

- ❖ リサーチクエスト(RQ)とは、単なる調べ学習で完結する「すぐに解決できる問い」ではなく、仮説を立てて検証を重ねることで明らかにする「課題研究全体で探究していく発展的な問い」である。
- テーマ・先行研究の検証：
 - 生徒自身の興味・関心との強い紐づけがあるか。
 - 社会的課題、あるいは特定の学術分野との関連性が見出せているか。
 - 抽象的な言葉を、客観的に評価可能な具体的文言に置き換えられているか。
 - (社会科学系)関連する制度や法律、歴史的背景を理解しているか。
 - (自然科学系)関連する原理・原則、基本的な理論や定理を理解しているか。
- リサーチクエストの具体化：
 - 問いに用いられている言葉の意味や定義を正しく理解し、説明できるか。
 - 「問いに対する答え」からさらに「新たな問い」を立てることで、発展的な構造を作れているか。
 - 「いつ」「どこで」「誰が(何を)」といった多面的アプローチで問いを具体化できているか。
 - 研究を遂行するために必要なリソース(機材、アンケート対象、分析ツール等)が準備可能か。